

## 記念講演

### 「日本統合失調症学会への期待と要望」

伊藤正男

理化学研究所脳科学総合研究センター特別顧問

この度の日本統合失調症学会の創立はまことに時宜を得たものと、こころよりお祝い申し上げます。脳科学の立場からみると、統合失調症の研究は現在二つの方向へ向けて進んでいると思われます。第一は、その生物学的な病因の解明で、これが進めば、統合失調症を治療し、予防する画期的な方法が生まれると期待されます。現在、染色体の14ヶ所にも異常があると報告され、まだ漠然とした感は否めませんが、今後、遺伝子、細胞・分子レベルにおける生命科学的な研究の急速な進歩により、発症の原因が特定されることは可能と思われます。現在、先発した神経変性疾患の病因解明のための研究が目覚ましく進んでいますが、次は精神疾患の病因解明が飛躍的に進む時期が近づいてきました。第二は、統合失調症においてみられる特異な精神症状の理解の進歩です。一見、不可解な精神症状について、精神分析に代って、脳科学が辻褄のあった説明を提供するようになってきました。大脳連合野がメンタルモデルを構築し、小脳がそれをコピーして内部モデルを構築するという仮説は、その提供する説明の斬新さと適用の広さが注目されます。このように、統合失調症の研究は今や脳科学の最先端領域として世界中の研究者の注目を集めており、日本においてもその急速な進歩に大きな期待がかけられています。その一面、統合失調症の研究にはこれまでとは桁の違うレベルの学際的、国際的な協力が必要なことを強調しなければなりません。分子生物学、遺伝子工学、生化学、細胞生物学などの領域の研究者、他方では認知科学、システム神経科学、ロボット工学、人工知能など専門家との密接な協力が不可欠です。そのような学際的な協力を可能にするには、研究費の獲得、研修会の開催、出版などの仕組みが必要です。そのような活動を組織し、これからの目覚ましい発展を現実のものとする強力な態勢を確立されることを日本統合失調症学会に要望します。